

中田かわら版 2月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■ この人に会いたい<22>



小嶋文雄さん

「中田囃子保存会」会長 小嶋 文雄さん（83歳）中村

長身で背筋の伸びた若々しい姿で、眼鏡の奥の優しい目が印象的な小嶋文雄さん。平成15年～18年は中村町内会会長（現在平成18年より中田連合自治会相談役）、横浜市泉区中田土地改良区理事長、中田囃子保存会会長、平成27年度泉区選挙管理委員会委員長、神奈川県交通安全協会副会長等々。キリリと一本筋が通った方である。

幸せな家庭を一瞬に不幸に突き落とす交通事故撲滅を目指し、70年を迎える交通安全協会に所属。昭和44年、戸塚交通安全協会に入会して広報紙発行や講習会で映写係を務めてこられた。春秋の交通安全週間はもとより、中田地区連合の諸事業での交通安全指導や小学校1年生の交通安全教室への指導、年間出勤回数は数えきれないほど。昭和63年に全日本安全協会賞以後、横浜市長賞、神奈川県知事賞、関東管区警察局長賞などを授賞。

次に、横浜市泉区中田土地改良区は中田中学校北側にある中田中央公園一帯（中田中央公園の一角に改良事業の記念碑がある）。近代農業をめざし昭和39年7月に設立した約30万㎡の面積がある。組合員92人。一時は道路に200台もの廃車や生活ゴミが放置され、撤去までには多くの日時と費用を要したという。現在この土地では、野菜（62%）を中心に植木（18%）や果樹栽培（16.7%）を先進的に行っている農家がいる一方、横浜市の災害時避難場所に指定されている。一帯は整備された舗道で朝夕散歩やジョギングをする区民の姿が見られる。理事長として市民利用型農園等による活用も考えているそうです。

伝統を守り「中田囃子保存会」で活躍されている様子を伺うと、165年前に阿久和村（現瀬谷区）から伝わる。当時、村民670人、民家95戸。村の鎮守の御霊神社の祭礼には豊作と災難防止を祈願し囃子が奉納された。宵宮では一晩中囃子連中が笛・太鼓で神様をお守りする宮番の大役を務めた。今は都市化の波が鎮守の森にも押し寄せ、最近では午後11時近くなると囃子の音も鳴り止み寂しい限りとのこと。正月の獅子舞は「体の悪い個所を咬んでもらうと病気が治る」とお年寄りや病人に喜ばれている。昭和53年郷土芸能協議会に認定、翌年横浜市無形民族芸能団体に認定。現在、40人と多数の子供囃子連が稽古日には汗を流している。宮司さんや神社氏子総代はじめ地域の方々のご理解とご支援のもと、いつの世までも中田囃子が地域に愛され栄えてほしいと願っておられた。

最後に「私の宝物」を伺うと一枚の賞状を見せてくれた「800m、2分12秒4、貳等、昭和27年10月12日、秋季市民陸上競技大会」横浜市体育協会会長・横浜市長平沼亮三氏より授与、とあり若い頃を思い出すように相好を崩された。昭和28年会社（株式会社プラスミック―日本に唯一の競馬の決勝判定写真業務を行う）に入社したが土・日が出勤のため大好きなスポーツを断念、ほろにがさを噛み締めておられる様子。



中田囃子保存会(平成28年1月)

矍鑠として若い者を鼓舞激励し、ユーモアをもって応対され、酒をこよなく愛し、泰然自若とした古武士の姿、それが小嶋文雄さんでした。
（編集委員 山木重樹）

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

3月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【寸劇フェスティバル】 - 観覧無料 -

日時：3月13日(日) 13:00~ (12:30 開場)

場所：泉区民文化センター テアトルフォンテ

中田・しらゆり子育てネットにて、地域の子育て支援者のみなさん、親子サークルさんなどが出演します！

【中田コミュニティハウスまつり】



日時：2月27日(土) 9:00~17:00

28日(日) 9:00~14:30

場所：中田コミュニティハウス

【さくらまつり】

日時：平成28年3月27日(日)

10:00~15:00

場所：中田小学校
グラウンド
主催：中田小学校
同窓会



■中田中学校（加藤慎治校長）吹奏楽部

「敬老会」で感動の名演奏

「中田敬老会」（中田連合自治会主催）が行われた昨年9月、水戸黄門などの演奏で喝采を浴びた同中学校吹奏楽部（指揮者・鈴木佑輔先生）。この日のために用意された曲はピンクレディ・メドレー、水戸黄門、ふるさと、まつり（北島三郎）など5曲だった。ご存知「人生楽ありや、苦もある〜」のメロディが演奏されると、場内はざわめきが起る。この毎年見られる感動の風景は何なのだろう。可愛い孫のような子供たち（中学生）が、大人を楽しませてくれるために夏休みも返上し、特訓してくれていることを、お年寄りたちがよく知っている。この曲が始まると「ありがとう」と涙を流す人もいる。

暮れも押し詰まった12月、同校を訪れ鈴木先生に練習風景などを案内してもらおう。眉目秀麗の言葉がピッタリの38歳の若き指揮者である。中田に赴任されて3年目になる国語が専門の先生。音楽が好きで学生のころから音楽部で活躍。高校、大学を通じ8年以上タクトを振ってきた。現在部員65人。14、5種類の楽器で編成されている。

毎年7月、8月に行われる横浜と県の吹奏楽コンクールでは毎回、上位を占める実力派先生だ。練習時間は始業（8：40）の1時間前と放課後の2時間。楽器ごとに4～5のパートに分かれ2、3年の上級生がリーダーになり指導する。楽譜を見ながら「ここはこういうふうにと注意をすると、1年生がはきはきした声でハイと答えている。「敬老会」は年間行事の大事なイベントと位置付け、夏休み前には選曲が決まり楽譜が渡され7～8月ごろまでに完成させる。通常5曲のうち3曲を新たに加える。

「大事なことはチームワーク。全員がよくまとまっていること。完成するには一人ひとりがキチンとやらなければならない。教える側も毎日が勉強ですし、生徒たちも伸びていきます」。先生は生徒たちから人望があるのでは、という問いに「さあ、細かい先生だと言われているかも」。それは鈴木先生の愛情と情熱があつてのことだと思ふ。今年の「敬老会」での再会を一同楽しみにしている。（編集委員・宮田貞夫）



練習風景(左が鈴木先生)



吹奏楽部の皆さん

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！